

新たな
連携へ

産学官連携ネットワークの構築

九州はひとつ！ネットワークで活動

キーワード：ネットワーク・アクア・アグリ・クラスター構想

本事例の関係者

長崎大学・熊本大学・
大分大学・鹿児島大学
文部科学省産学官連携
コーディネーター
OB
文部科学省産学官連携
コーディネーター

コーディネーターが力を合わせプラスを大きく

【要約】

九州はひとつと連携して活動することを考え、まずは文部科学省産学官連携コーディネーターが連携して踏み出そうと、長崎大学、熊本大学、大分大学合同研究セミナーを開催することから始めた。

「九州横断3大学」として始めたが、その後、「JST新技術説明会」等の開催には「九州横断3県」とし、平成21年3月には、「九州クラスター構想」とつなげ、鹿児島大学支援コーディネーターとの連携活動にも広がっている。

ネットワークを構築して活動することは、大きく広がった実りある活動となり得ると考える。

【きっかけ】

文部科学省産学官連携コーディネーターとしての出発が同じである、熊本大学支援コーディネーターと今後の活動について話す中で、支援している各共同研究交流センター等のネットワークを結び、より活発な産学官連携推進活動につなげていこうと合意したことがきっかけである。

長崎大学と熊本大学の連携のみならず大分大学支援のコーディネーターにも声をかけ、まずは「九州横断3大学」として、その後九州はひとつと考えてつないでいこうと枠組みを決めた。

【段取り・プロセス】

3大学の産学官連携部門センター長同士の連携協定を結ぶことも考えたが、大学ごとの決まりもありなかなか難しいということもわかり、まずは文部科学省産学官連携コーディネーター同士が踏み出すことにした。

●「九州横断3大学」としてキックオフセミナー開催

第1段は、九州横断3大学として、イノベーションにつながる、関連性がある研究者を集めたセミナーを、長崎大学、熊本大学、大分大学が合同で開催することにし、研究のテーマを決め、セミナーで発表する研究者をお互いに持ち寄った。

もともと研究のつながりがある研究者同士ではあったが、発表者自身が他大学の研究者と積極的に連絡を取り合っただけのすり合わせもあり、多数の研究者が聴講、質問を発する中身が濃いセミナーとなった。

●「九州横断3県合同」から「九州クラスター」構想へ

この成功で、連携して活動することが必要だということを実感として理解し、2回目のセミナーのテーマは、次の活動はと話し合う内、1大学ではなかなか成功とならない「JST新技術説明会」を合同で開催しようという話になり、「JSTイノベーションブリッジ」を含めて開催を実現した。

その後、大きく「九州クラスター構想」と謳い、鹿児島、熊本、長崎、宮崎からのパネラー、参加者を得たシンポジウム開催へと発展している。

【成果・結果や活動後の変化】

始まりは「九州横断3大学」として活動を踏み出したが、「JSTイノベーションブリッジ」、「JST新技術説明会」とともに、「九州横断3県合同」と頭に謳っている。

県内の各校に声をかけ発表研究者を募ろうと、長崎は2大学1高等専門学校、熊本は2大学1高等専門学校と、文部科学省産学官連携コーディネーターによる支援校のみの活動としなかった結果である。

新しく支援を開始したコーディネーターを含め、連携して、まずは九州はひとつを実践したいと歩き始めている。



九州横断3県合同開催
新技術説明会

新技術説明会に 参加した大学等の 構成

長崎県：長崎大学・
長崎県立大学シー
ボルト校・佐世保
工業高等専門学校
熊本県：熊本大学・
崇城大学・八代工
業高等専門学校
大分県：大分大学

成功の事例

コーディネーターOBも大きな力

合同セミナー開催等から始めた文部科学省産学官連携コーディネーターネットワークを使っての活動だが、平成21年3月には、「九州クラスター～九州より発信～」として、熊本大学を会場とするシンポジウム開催と発展した。

熊本では水、鹿児島ではアグリ、長崎では水産と大テーマを設け、九州財務局長をモデレータに、アグリクラスター構想、メディポリス構想、水産クラスター構想、ものづくりクラスター構想、水クラスター構想と、既に構想を実現している銀行の頭取等、理事長、今から実現していきたい研究者をパネラーとするシンポジウムである。

シンポジウムの終わりには、「九州クラスター構想」を、和文、英文で発信した。

モデレータ、アドバイザー、パネラーと、九州各県、東京からの登壇者もある、準備期間が短かったシンポジウムを成功とすることができたのには、事務局となってまとめてくれた、現在熊本大学知財マネージャーである、文部科学省産学官連携コーディネーターOBの存在がある。

今回の事例の場合、産学官連携を熟知したOBの存在も、ネットワークが大きな力と成り得る要因であった。

新たな 連携へ



キックオフとして熊本大学を会場とし、3大学の研究者を集めてのセミナー

失敗の事例

後方支援の人材がどうしても必要

合同研究セミナーの次の開催はと、テーマは決めだが、時期、費用等が原因で、平成21年9月まで開催を延期することになった。

裏を返せば、後方支援をしてくれた文部科学省産学官連携コーディネーターOBの存在が、いかに大きいかといえよう。

広域を考えたセミナー、シンポジウムの開催となると、会場の交渉、出席者の日程調整、事務的作業等、コーディネーターと専任教員だけでは時間的になかなか難しい部分がある。

各大学等で、後方支援等を受け持ってくれる、産学官連携を熟知した支援人材を見つけることがどうしても必要である。

コーディネーター自身となると、「九州はひとつ」、「九州クラスター」と謳いながら、九州全県とのネットワーク構築とは未だ至っていない。

プロジェクトの実現のためのネットワーク構築としたいが、そのためには、各県で何を実現していくかをコーディネーター同士が考え、進んでいくことが必要であると考えられる。

成功と失敗の 分かれ道

企画から実践までを受け持つコーディネーターの存在はもちろんだが、後方支援を含むネットワーク形成も、成果を出すには必要となる大きな要因である。

産学官連携の新たな展開に向けた提言

九州クラスターとして何を実現するか

「九州クラスター～九州より発信～」として、大枠は発信した。

鹿児島銀行殿と鹿児島大学が取り込んでいる「アグリクラスター」等、着々と成果を上げている構想もある。

次に取り組みたいことは、構想として発信した案件について実現へ向けて踏み出すことである。

例えば、長崎大学が提案した「水産クラスター」構想が他県で実現できないか、これも、他コーディネーターと連携して歩みたいと考えている。

活動が広範囲になると行動するのもなかなか難しくなるが、まずは踏み出すことであろう。

九州において、金融機関、産業界、大学等とネットワークを構成し、実現に向けて検討していこうと、熊本大学支援のコーディネーターと歩き始めた。

踏み出さないと何も始まらない、このように考えている。

☆コーディネーターの一言

支援校が存在する県での活動にとどまらず、文部科学省産学官連携コーディネーター同士がネットワークを構築し連携して活動することは、活動の新しい方向性を見出すこともでき、また、楽しいものである。